

## 第26期第5回常任理事会議事録

日時：3月1日13時00分—17時20分

場所：気象庁 第2会議室（5階）

出席者：浅井 竹内 小倉 木田 村上  
青木 松原 安成 佐藤 中村

## 議事

## A. 報告事項

## 1. 各委員会報告

「庶務」主なものは次の通り

- ・協賛依頼 2件, 共催依頼1件, 後援依頼1件
- ・日本学術会議第15期会員候補者推薦人等の届は2月13日に終わった。

「会計」

- ・3月5日に気象集誌, 6日に気象研究ノートの入札を行う。
- ・会員データベース進捗状況について説明があった。3月中旬からランニングテストを行う予定

「天気」

- ・2月号の内容と3月, 4月号の予定が報告された

「国際学術交流」

- ・1990年度後期の助成金の申請は非常に多くなっている。将来予算枠の増額をお願いしたい。

「気象集誌」

- ・Vol. 69 No. 2の論文9編が紹介された。
- ・気象集誌「アジアモンスーン特集」について気象集誌に掲載した論文募集の内容説明があった。招待論文と応募論文で構成される。

「気象研究ノート」

- ・編集委員会報告があった。
  - ア 気象統計 : 著者校正中
  - イ 新天気予報論(メソ) : 査読中
  - ウ 農業気象環境学 : 原稿完成

「IAMAP」

- ・IAMAP93のヒヤリング日程が決まった。3月13日10:30—10:45於て?????
- ・1993年は10の国際会議が申請されている。
- ・1991年度のIAMAP事務局経費見積りが提出された。

「総合計画」

- ・学術会議から HDGEC (Human Dimension of

Global Environmental Change) についてアンケート依頼があった。

「講演企画」

- ・3月14日春季大会のプログラムを編成する。
- 「通信メディア」
  - ・パソコン通信の1月着信件数と内容の報告があった。

## B. 審議事項

1. 第4回常任理事会の議事録は一部修正の上承認された。

2. 会員の新規加入等について

新入会員 個人13名 退会 個人19名  
団体 7 以上承認された。

3. 複写権の委託について

提案者である「学協会著作権協議会」から再度、委託契約のお願いがあり、審議の結果、委託の回答を出す前に、当学会としては著作権を設定していない気象研究ノートの取扱がどうなるか、また、著作者本人だけでなく当学会利用のためにも複写できるようにしておくことが必要であるなどの問題点が出された。この点を調査の上、次回の常任理事会に出すことになった。

4. 学会賞について

選考委員長から理事長に1991年度学会賞受賞候補者2名について報告があり、理事長から常任理事会に報告があった。

候補者の青木忠生(気象研究所)会員と廣岡俊彦(気象大学校)会員に対して、細則に基づいて理事投票を行うこととした。

5. 「奨励金」受領者選定規定の改正について(春季大会総会提案)

第26期第1回常任理事会関連(1990. 9. 12)改正案が提出された。審議の結果、案どおり承認され全理事の承認投票を経て総会議案とすることになった。

6. 日本気象学会データベースに関する契約書の案が提出された。一部修正の上次回の常任理事会に出すことになった。

7. 1991年度の事業計画案・予案が提出され説明が行われた。国際学術交流のための助成金を増額する

ことになった。その他、提出資料の一部、修正追加などがあったが、大会に向けてさらに検討して行くこととした。

#### 8. その他

- 1) 評議員会で頂いたご意見を「天気」に紹介していかかとの発議が有り議論の結果、各評議員に

対して総合計画担当理事から「天気」に原稿をお願いすることとした。

- 2) 会計担当理事から、経理事務の現状説明と当面の対策について説明が行われた。
- 3) 若手研究者の研究会を講演企画委員会の担当位置づけて助成して行くこととした。

## 第14回極域気水圏シンポジウムのお知らせ

南極域では、現在第32次観測隊により「南極域における気候変動に関する総合研究(ACR)」の最終年次が実施されており、第33次からは「氷床ドーム深層掘削観測計画」が始まります。また北極域においても当研究所に北極圏環境研究センターが設立され、海水研究を中心に観測がなされようとしています。また国内でも氷床コアの分析や衛星データの解析、オゾンホールや氷床変動の研究が続けられております。つきましては、極域における気象学、雪氷学、海洋学に関連する研究成果と今後の研究の展望について議論すべく、下記によりシンポジウ

ムを開催致します。ふるって御参加ください。

#### 記

日時：1991年7月9日(火)、10日(水)

会場：国立極地研究所、講堂

発表申込締切：5月8日

連絡先：国立極地研究所 気水圏シンポジウム係

〒173 東京都板橋区加賀1-9-10

電話 03-3962-4711

Fax 03-3962-5719

編集後記：つい最近引越しました。予報課に3年いる間に、我が家の住所は4つめです。引越当日はよく晴れて、数日前の週間予報が外れてよかったと心から思っています。

引越しに限らず、人々の天気予報への関心は強くなる一方で、時間・空間ともにきめ細かく、正確で、できるだけ先の長い予報が求められています。「高度情報化社会」とでもいうのでしょうか、気象情報もその情報の一つである以上、時代の雑勢には抗し難いものがあります。

人々がなぜかくも天気に敏感になってしまったのでしょうか。昔なら「今日は雨だから、仕事は休みたい！」といえた江戸の町も、今や東京人ばかりが眠尻つり上げ

て24時間働き続ける、喧噪のるつぽ。そんな中でわずかに見つけた余暇は何にもかえがたいものなので、たとえ海が大荒れでもボートは出すし、雷に打たれてもゴルフを続けます。何も、都会人に限ったことでないですが。

天気には敏感でも、現象には鈍感になってしまった人々のニーズにどう対応したらいいのでしょうか。いや、そんなものが果してニーズと呼べるものかどうか。「情報が情報を生む」といい、情報を作り出すために働いて、そのために自らの情報の多さに流され続ける、あわれな「情報消費バチ」の姿を見る思いがします。

私は、「雨が降ったら雨が降ったと書いておく」ことにしましょう。(II)